

## ◇ 国 語

国 2-1～国 2-18 まで 18 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

人間が人間という動物になったのは、おそらくアフリカにおいてであったといわれている。その当時のアフリカには、すでに恐ろしい肉食獣たちがいた。かつて他の類人猿たちと住んでいた森林をどういうわけか離れて草原へ出てきた人間は、その肉食獣たちの攻撃を避けながら、小さな獲物を捕り、虫を捕り、そして植物を食べということによって、やっと生きのびてきたのではないだろうか。

人間は、専門的な肉食動物にはなりえなかった。草原に出るからは、前よりもよく狩りをするようにはなったが、もともと草食の類人猿から本格的な肉食動物になる時間はなかったろうし、もしなつたとしても、とてもアフリカに前からいた肉食動物たちとタイクウ<sup>A</sup>しうる肉食獣にはなれなかつただろう。

そして専門的な草食動物にもなりえなかつた。専門的な草食動物になるためには、体の、少なくとも胃と腸の大改造をしなければならぬが、そんなことをしている時間はなかつたし、もともと雑食に近い類人猿の仲間である人間に、腸のそのような大改造は不可能であつた。大量の草を食つて徹底的にそれを消化して、そこからすべての栄養をとるといふようなことができる動物ではなかつたのである。

類人猿の仲間は、ある意味では草食動物であるけれども、草の芽を食ひ、木の芽を食ひ、タケノコを食べ、木の根を掘り、あるいは葉っぱも食べ、木の実や果実を食べ、虫も食べ、というような、きわめて雑食動物的な動物である。人間はそのケイトウ<sup>B</sup>を引いているので、おそらく専門的な肉食動物や草食動物になることはできず、いいかえれば、<sup>C</sup>もつと専門的な雑食動物になつた<sup>D</sup>の<sup>E</sup>だろうと思われる。

なぜ「専門的な雑食動物」などと強調するかというと、かつて雑食ということ、中途半端であるとか、<sup>F</sup>日和見的であるとか考えられていたからである。肉も食べ、草も食べ、そのときどきで適当にというのが雑食動物であるかのように思われたときもあつた。

ア。雑食動物であるためには、それなりの体の構造が必要である。つまり、肉を食べるからには、獲物を捕らえたり殺したりするための鋭い歯も必要である。と同時に、草を食べるには植物をすりつぶす臼歯も必要である。腸の一部には消化しにくい植物体を多少ハツコウさせたりして消化を助けるような部分も必要であったろう。多様な植物に対応してそれなりに適した消化をしなくてはならないだろうから、腸は肉食動物の腸のように短く単純なものではすまない。植物体の消化には肉よりも時間がかかるし、消化しきれない繊維質も多いから、ちゃんと消化・吸収するためには、腸はかなりの長さを必要とした。小腸・大腸を合わせた腸の長さは、人間では体長の五倍から六倍になる。

その結果として人間は、複雑な構造を備えた動物になった。

口には噛み切るための鋭い歯とすりつぶすための平たい歯が、イ配置されている。つまり口の前方には、食物をかみ切るための切歯があり、後ろのほうには平たいすりつぶしの臼歯が並んでいる。専門的な肉食動物でもなく、専門的草食動物でもない。そしてその単なる折衷でもない。これらの歯は、ちゃんと上下がそろってなくてはならず、順番もそろってなければ意味をなさない。こういう歯をきちっと並べるのは大変なことであつたらうと思われる。しかし、人間はそういう歯をもっている。

消化器官についても同じことが見られる。

本来、胃というものは、食べたものを殺したり砕いたりつぶしたりして胃液と混ぜあわせ、一部の物質については大まかな消化をしたうえで、かゆ状になったものを腸へ送る器官である。

草食動物のウシはこの胃を徹底的に大改造してしまつたが、同じ草食動物のウマは、胃はあまり変えず、消化の機能をもつと後方へ送ってしまった。肉食動物は殻や骨や手や羽毛のある獲物の体という荒っぽい食物をとにかく処理して腸での消化に適したものとし、腸で処理できそうもないものは吐き出すことも考えた。

しかし、胃の本来の機能からいって、雑食動物では植物質の食物の消化は腸に委ねるほかなかつた。そのため腸が複雑な働きをすることになるのである。

ひと口に植物質といっても、胃から送られてくるのは草ばかりではない。草の葉あり、茎あり、根あり、根茎あり、塊茎あり、<sup>注</sup>むかごあり、果実あり、キノコありといった具合だ。ときには、そのままでは何ともできぬ種子もある。

このような種々雑多なものに腸がどのように対処しているのか、詳しくはわからないが、極端な雑食動物である人間の腸は何とかしているのだろう。このような腸の機能は、専門的な草食動物の腸にはおそらく備わっていないだろうし、専門的肉食動物では必要もないことだろう。

専門的草食動物では重要なハツコウ消化の場であった盲腸は、たいていの雑食動物では存在はするがあまり大きくない。人間の盲腸もたぶんそこで多少のハツコウが行われる部分であったと考えられるが、今はとくに消化の機能はないとされている。このような構造は、中途半端というものではなくて、やはり専門的に雑食に向けた雑食動物の体なのである。

人間がこのように専門的な雑食動物になったというのは、どういうことか。

肉食動物であれば、とにかくほかの動物たちを捕らえて食べる。そしてその肉を食べれば、その肉からすべての栄養がとれるということである。オオカミやライオンやネコが食後にフルーツを食べなければ栄養のバランスがとれず、健康を損なうというようなことはない。彼らは肉だけ食べていけば、すべての栄養がとれるようになってきているのである。

一方、専門的な草食動物であるウシやウマは、肉などを食べる必要はまったくない。すべての栄養は食べた草からとっている。しかもその草は、それほどいろいろな種類のものである必要はないのである。せいぜい数種類の草が大量にあれば、それで十分に生きていける。

つまり専門的肉食動物や専門的草食動物にとって、直接に食べる食物という面で見ると、生物多様性はとくに必要ないように思われるのだ。

しかし人間の場合はちがう。人間は雑食動物であるから、じつにさまざまな食物を食べる。まず、哺乳類の肉を食べる。鳥も食べる。爬虫類や両生類を食べる土地もあるし、魚はよく食べる。甲殻類も食べるし、貝、イカ、タコのようなナントク動物やクラゲも食べる。昆虫も食べる。そのほかの動物はあまり食べないが時と場所によっては ウ。植物の果実、つまり果

物はいろんなものを好んで食べる。果物に含まれている種子も食べる。もちろん植物の葉っぱや芽も大量に食べる。根も食べるし、イモとか根茎、塊茎も食べる。ムカゴのような不定芽<sup>ふてい芽</sup>も食べる。農業はそのために発達した。昆虫にはキノコムシ<sup>キノコムシ</sup>といって、特定のキノコを専門に食べているものがあるが、人間はキノコも食べる。海藻も食べる。

人間のこのような特徴が人間のグルメの基盤になっていることは確かだが、これはグルメというような次元の問題ではない。人間はこのようにさまざまなものを食べることによって、それぞれから少しずついろいろな栄養分をとっている。そして、それによって始めて、バランスのとれた栄養が保たれるようになっていく。昔から言われてきたとおり、「何々という食べものには何々という物質が含まれていて、それがどのようなサ<sup>F</sup>ヨウをもっていて体によい」のである。

これはテレビが好んでとりあげる美と若さの問題などではけっしてない。われわれ人間が純粹に草食に専門化した動物でもなく、純粹に肉食に専門化した動物でもない、いわば純粹に専門化した雑食動物である以上、これは人類の生存と未来にかかわる生き死にの問題なのである。

(日高敏隆編著『生物多様性はなぜ大切か?』による)

注　むかご　…植物の芽の一種。球根に似た塊をなす。普通には芽を生じない場所から出る芽なので不定芽でもある。

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A タイコウ

- ① 勢力がキツコウする
- ② 太平洋をコウカイする
- ③ カッコウが良い犬
- ④ 刑をシッコウする
- ⑤ 免許証をシッコウする

1

B ケイトウ

- ① 宝くじにトウセンする
- ② 国民の意見をトウセイする
- ③ ゼンジンミトウの高山
- ④ 野球でトウシュを任される
- ⑤ 富士山トウチョウに成功する

2

C ハッコウ

- ① カンハツを容れず出かける
- ② 木々をバツサイする
- ③ 事件のホツタンを調べる
- ④ 禁止されていることをハツトとも言う
- ⑤ ハツマゴが生まれる

3

D ナンダイ

- ① 生きる上でのナンダイ
- ② ロウニヤクナンニヨが参詣する寺
- ③ 踊り方をシナンする
- ④ ナンピトたりとも許されない行為
- ⑤ 競技中にナンコツを損傷する

4

E サヨウ

- ① 機械をサドウさせる
- ② ササイな言動に傷つく
- ③ 千利休はサドウの大家である
- ④ 会社でサセンされた
- ⑤ 先生をホサする助手

5

問二 空欄 [ア]・[イ]・[ウ] に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

[ア]

- ①なるほど、そうであろう
- ②しかし、そうではない
- ③たしかに、一理はある
- ④実際、しかたなかった
- ⑤つまり、間違いである

[6]

[イ]

- ①雑然と
- ②心地よく
- ③不調和に
- ④しかるべく
- ⑤つつましやかに

[7]

[ウ]

- ①心配はいらない
- ②思うようにいかない
- ③作業ははかどらない
- ④食欲がわかない
- ⑤このかぎりではない

[8]

問三 傍線部 (a)・(b) の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 日和見

- ① 覚悟を決めて目の前に挑戦すること
- ② しばらくどっぴつかずの態度を保つこと
- ③ あまり深く考えないでどちらかに決めること
- ④ 前もってどちらにするか決めていること
- ⑤ どちらにも決めないで別の在り方を探すこと

9

(b) 折衷

- ① いくつかのものがばらばらの方向に散らばっていくこと
- ② ひとつひとつのものをもとあった場所に戻していくこと
- ③ 二つ以上のものからよいところをとって組み合わせること
- ④ ひとつのものがもうひとつのものにしみこんでいくこと
- ⑤ ほかの全てのもののある一点に向けて集めていくこと

10

問四 傍線部 (一)「もっと専門的な雑食動物になった」とあるが、その理由として当てはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① もともと類人猿の仲間である人間には胃と腸の大改造が出来なかったから
- ② たとえ肉食獣になれたとしても、人間はアフリカに前からいた肉食獣にはタイコウシえなかったから
- ③ 人間が大量の草と大量の肉のどちらも消化しうる丈夫な胃と腸を備えていたから
- ④ 人間がもともと雑食的な動物であり、専門的な肉食動物や草食動物にはなれないから

11



問五 傍線部(二)「複雑な構造」の説明として当てはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

12

- ① 体長の五倍六倍にも及ぶ長大な腸を持っていること
- ② 盲腸はかつて食物をハッコウさせる機能を有していたろうこと
- ③ 草以外の植物質にも対応しうる腸を備えていること
- ④ 口の前方に臼歯、後の方には切歯が並んでいること

問六 傍線部(三)「農業はそのため発達した」とあるが、その発達の理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

13

- ① 人間は肉、魚はもちろん昆虫までも食べるから
- ② 人間は植物の果実や種子、葉や芽も大量に食べるから
- ③ 人間は雑食動物としてじつに多様なものを食べるから
- ④ 人間はムカゴのような不定芽までも好んで食べるから

問七 傍線部(四)「これ」とは具体的に何を指しているか。次の①～④の中から最も適当なものを一つ選べ。

14

- ① 人間のグルメの基盤
- ② 純粹に専門化した雑食動物であること
- ③ 美と若さの問題
- ④ 人間がさまざまなものを食べること

問八 本文の内容と一致するものはどれか。次の①～④の中から最も適当なものを一つ選べ。

- ①多様な生物が存在する環境は、さまざまな物を食べる人間にとって必要不可欠である。
- ②美と若さを保つうえでも、さまざまな食物をバランス良く摂取することは重要である。
- ③肉食しかない動物のなかには、栄養のバランスがとれずに健康を損なうものもある。
- ④類人猿の仲間である人間は、草食動物や肉食動物よりも生態系の上位に位置している。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

大阪の人は、話がおもしろい。言葉のやりとりが、漫才のように聞こえる。上方芸能のいわゆるお笑いは、たがいにおどけあうことをよるこぶ大阪人が、はぐくんだ。そんな大阪文化論を、我われはしばしば耳にする。

私じしん、そう力説している大阪弁の男を、東京で見かけたことがある。たまたま入った居酒屋で、隣の席からくだんの文化論は聞こえてきた。見れば男は、関東弁の連れたちと、大阪の漫才を語り合っている。

そして、その話題に関するかぎり、彼は指導者のようにふるまっていた。にわかじこみの大阪弁で漫才の真似事におよぶ、ほぼ同年代の関東者をたしなめてもいる。シンヨウが弟子を、きたえるかのように。

あかん、あかん。そんな間合いでやったら、笑いはとれへん。ええか、ボケとツツコミは、ただそれらしい文句をゆうたらええんとちやうんや。ボケのボケぶりは、活かすも殺すも、ツツコミのタイミングしだいなんやから……。

とまあ、彼は以上のような口調で、その場をしきっていた。たいしたことを言っていたわけではない。だが、大阪の人間は、素人であっても、大阪からきたというだけで、笑いの師となりうる。そのことを、目に焼きつけさせられた一瞬ではあった。

前にもふれたが、東京生まれの谷崎潤一郎は、関西へうつりすんでいる。そして、大阪見聞の随想を書いた「私の見た大阪及び大阪人」(一九三二年)。八十年以上前の記録だが、そのなかで谷崎は大阪の人びとを、都会人としてみとめている。関西では、大阪だけが都会的だとさえ、書ききった。その理由は、大阪人の

「大阪人はアレでなかなかコツケイを解する。その点はやはり都会人で、男も女も洒落や諧謔の神経を持っていることは東京人に劣らない……洒落の分るのは江戸っ児ばかりに限ったことはない。それは中国四国辺の人と大阪人とを比べてみると、その相違が実にはつきりしている」

意外なことに、大阪の人たちもユーモアがわかっている。その点では、江戸っ児とくらべても、ひけをとらないというのである。大阪人こそがそういう方面の達人だとは、まったく思っていない。彼らにも諧謔味はがあると、あたかも数年の滞在で発見をした

かのように、つたえている。今日とは、平均的な大阪人像のちがう時代があつたことを、わかっていただけよう。

「まいどワイド30分」というテレビの番組を、ごぞんじだろうか。一九八三年から九三年まで、十年間にわたって放送された。テレビ大阪が世におくりだした、大阪限定のニュースワイドショーである。

放送時間は、午後五時から五時半まで。勤め人たちは、まだ帰宅していない。テレビを見るのは、おもに家庭の主婦たちという時間帯である。

その想定されうる視聴者層を、ねらつてのことだろう。この番組は、「決まった！今夜のおかず」というコーナーを、うちだした。大阪の市場や商店街で食材をもとめる買い物客に、カメラとマイクをつきつける。そうして、今晚のおかずは何にするのかとたずねる枠を、もうけたのである。

画面へ顔をだすのも、とうぜん大阪の主婦たちにかぎられた。似たような試みじたいは、以前からあつたかもしれない。街でリポーターが女性へ声をかける映像も、単発的には流されていたような気がする。

だが、「決まった！今夜のおかず」は、連日彼女らを放送した。もつぱら、商店街の主婦たちに焦点をしばり、同じ時間枠でつたえつづけたのである。 イな番組であつた。

テレビ大阪は後発のローカル局であり、キソンの在阪四局と互角にたたかえない。よそと同じことをやっていたら、負けてしまふ。そんな想いも、当時としては目新しいこの企画を、あとおしした。番組担当者であつた沢田尚子ひなこが、以上のような回想をのべている（「大阪のおばちゃんに助けられて」関西民放クラブ「メディア・ウォッチング」編『民間放送のかがやいていたころ』二〇一五年）。

とはいえ、この番組も取材したすべての女性に、光をあてたわけではない。おもしろいと制作者たちが判断した者だけをえらび、テレビの画面には、だしていた。

はじめは、絵になる主婦を探しだすのに、苦勞をしたらしい。何人にも路上で声をかけ、ようやく見つけだすというような状態であつたという。だが、街頭インタビューをかさねるにしたがい、担当の沢田は人選の勘もやしなわれた。『このお母さんはいけ

そう』とか、だんだん見えてくるんです」(同)

路上取材であった女性の中から、ゆかい気に見える人だけをぬきだし、放送する。のちには、在阪各局がこの手法をとりいれた。大阪のおもしろいおばちゃんばかりを、画面から洪水のように流しだしたのである。ここでは、それが一九八〇年代以後の、新しい現象であることを、確認しておきたい。

大阪の朝日放送で社長までつとめた西村嘉郎よしおは、ラジオの時代から放送にかかわった。あるインタビューで、その当初から視聴者参加型の番組はあった、と言っている。二〇世紀のなかばすぎには、「素人も一緒に入れて」、番組をつくっていた、と。

その理由を、西村はつぎのようにのべている。「東京から……高名な俳優や芸人を呼ぶと制作費が高くつくということもあった」(「関西の番組の特徴は『笑い』——『視聴者参加』と『公開』の三つ」関西民放クラブ「メディア・ウォッチング」編『民間放送のかがやいていたころ』二〇一五年)

朝日放送だけにかぎった話ではない。在阪局は、どこも知恵をしぼってきた。「お金をかけないでどう面白く作るか」。「各局とも変化球を放りながら東京と闘った。そう西村は語っている(同)。ようするに、経費面での悪条件が、「素人」への依存をヨギヨギなくさせたというのである。

ライバルの毎日放送は、クイズ番組で視聴者参加の新機軸を、つぎつぎにうちだした。朝日放送は、カップルをあの手この手で、あつかってきたという。「夫婦善哉」めおとぜんざい、「新婚さんいらっしゃい!」プロポーズ大作戦等々と。

しかし、まじりつ気なしの「素人」をそのままつかったりは、けっしてしなかった。番組を ウ させるために、スタッフは「出場者の予選会を丹念にや」ったらしい。「予選でエピソードをいかにうまく拾うかで番組の成否は決ま」るからであるという。

あるていどは事前にしこまれた「素人」が、画面にでていたということか。だが、それでも視聴者は、おもしろい「素人」の映像を、見せつけられることになる。連日連夜のそんなつきかさは、ジョウソウ教育Eめいた役目を、地元ではたしてきただろう。

「素人」だって、おもしろくふるまうほうがいいという感性を、はぐくんだと考える。

西村に取材をしたインタビュアーも、こうたずねている。関西人が、もともとひょうきんだから、そういう番組もなりたつたのか。あるいは、メディアがしかけてそうなったのか、どちらだ、と。

これに、西村は前者だとこたえている。そもそも、関西人は「サービス精神旺盛」なんだ、と。しかし、インタビュアーが、いくらその点をうたがっていたことは、いなめない。私もそこがあやしいと、にらんでいる。

もし、関西人に「旺盛」な「サービス精神」が、ほんらいそなわっているのなら。その場合は、「出場者の予選会を丹念にやる必要もなかったろう。だが、テレビ局は事前の人選に、心をくわいてきた。やはり、彼らの「サービス精神」は信頼しきれなかったのだと思う。

（井上章一『大阪的 「おもしろいおばはん」は、こうしてつくられた』による）

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A シシヨウ

- ① 仏教ハツシヨウの地
- ③ コウシヨウな趣味
- ⑤ イシヨウを凝らした服

- ② 課長にシヨウシンする
- ④ シヨウギの駒

16

B コツケイ

- ① ケイシヤのある舞台
- ③ 日舞のケイコに行く
- ⑤ 大衆をケイモウする

- ② ケイセツの功
- ④ ケイミョウな音楽

17

C キン

- ① カイキ日食が始まる
- ③ 書類をハイキする
- ⑤ 力をハッキする

- ② キリツ正しい生活
- ④ 注意をカンキする

18

D ヨギ

- ① キヨギの申請をする
- ③ 歯科ギコウ士を目指す
- ⑤ ギフンに駆られる

- ② レイギ正しい人
- ④ ギキョクを読む

19

E ジョウソウ

- ① アイソウのない返事
- ③ カツソウ路に着陸する
- ⑤ 朝のソウカイな気分

- ② ソウゴンな式典
- ④ 飛行機のソウジュウ士

20

問二 空欄 ア・イ・ウ に入る最も適當なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア ①品性 ②機知 ③学識 ④人情 21

イ ①教育的 ②恣意的 ③画期的 ④風刺的 22

ウ ①正当化 ②活性化 ③組織化 ④単純化 23

問三 傍線部 (a) 「にわかじこみ」の意味として最も適當なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

①当座の間に合わせて急に覚えた ②友人でない者から教え込まれた 24

③本を通して中途半端に理解した ④自己流でひそかに練習を重ねた

問四 傍線部 (b) 「谷崎潤一郎」が執筆した小説を、次の①～④の中から一つ選べ。

①『雪国』 ②『地獄変』 ③『春琴抄』 ④『浮雲』 25



問五 傍線部(二)「くだんの文化論」の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ①大阪人は上方芸能への思い入れが強く、漫才やお笑いに関してつい熱く語ってしまう傾向がある。
- ②大阪人の言葉のやりとりは漫才のようであり、そのテンポの良さに笑いを生み出す秘密がある。
- ③大阪人には会話の中でおどけあうことを喜ぶ気質があり、それが芸能としてのお笑いを発展させてきた。
- ④大阪人は漫才やお笑いに親しみが深く、他の土地の者にも大阪弁でおどけあう楽しさを伝えようとする。

26

問六 傍線部(二)「今日とは、平均的な大阪人像のちがう時代があった」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ①谷崎の時代には、大阪人がことさら笑いに通じているという認識がほとんど確立していなかったということ
- ②谷崎の時代には、大阪人が洗練された都会人としての顔を持つという事実がさほど知られていなかったということ
- ③谷崎の時代には、大阪人が江戸っ児と似通った庶民性を持つというイメージが全く定着していなかったということ
- ④谷崎の時代には、大阪人が洒落や諧謔を理解できるはずがないという思い込みが根強く残っていたということ

27

問七 傍線部(三)「決まった！今夜のおかず」というコーナー」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

28

①夕食の材料をもとめる買い物客に今夜のメニューが何かを問うコーナーで、大阪に住む庶民的な主婦たちの姿を半世紀にわたってお茶の間に届け続けた。

②大阪限定のニュースワイドショーにおける一コーナーで、食材の買い物をしている大阪の主婦を街頭取材し、その姿を連日放送し続けた。

③商店街で食材を買う大阪の主婦を突撃取材するコーナーで、家庭の主婦や仕事を持つ既婚女性を主なターゲットとして視聴率を伸ばした。

④商店街にいる主婦にその日作る予定のおかずを尋ねるコーナーで、大阪に住むおもしろい主婦たちの姿を全国に向けて放映し、人気を博した。

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～④の中から一つ選べ。

29

①東京の各局が「大阪のおもしろいおばちゃん」を続々と取り上げて放送するようになったのは一九八〇年代以降の比較的新しい現象である。

②関西人と関東人の気質の違いは、街頭で取材を受けた素人がカメラの前でどのようなふうかという点においても顕著に表れてくる。

③二一世紀に入ってから、在阪各局は東京におけるテレビ番組と競うべく、それぞれに工夫を凝らしながら視聴者参加型の番組を制作していった。

④「まいどワイド30分」の番組担当者であった沢田尚子は、自ら取材を行う中で視聴者を楽しませる人材を見抜く目が培われたと回想している。

問九 筆者の主張として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

30

① 関西人にはもともと人を楽しませようとするひょうきんな性質があり、視聴者参加型の番組が次々と作り出されていったのも、そうした人々の気質によるところが大きい。

② 関西のテレビ番組において「素人」を選考してから出演させる手法が定着したのは、多少予算をかけてでもよりよいものを作りたいという制作側の熱意によるものである。

③ 関西人は生来ゆかいでサーブス精神が備わった人々だと思われがちだが、それはメディアによって作られたイメージにすぎず、テレビ制作者も実はそのことに気づいていたはずである。

④ 大阪ではテレビ番組におもしろい素人を参加させることを重視しており、そのアイデアが全国的に採用されるようになった結果、「お笑い」を愛する国民性が確立するにいたった。